

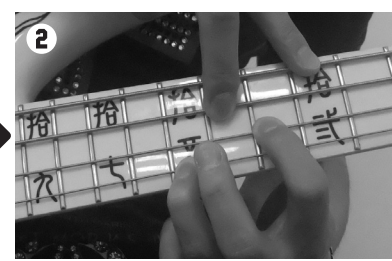
注意点1 右手&左手

両手の押弦を維持したまま 右手薬指でタッピングせよ!

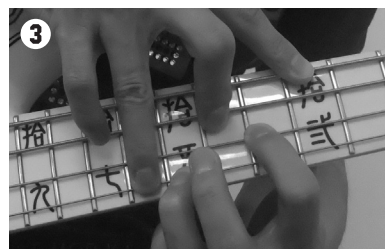
右手で低音弦のルート音を押さえるメロディック・タッピングでは、アルペジオを弾く右手薬指がポイントになることが多い。メイン・フレーズ1小節目で解説すると、まず右手人差指で4弦12フレットのルート音、中指で3弦14フレットの5度をタップする(写真①)。続いて、左手で1&2弦のコード・トーンを叩いた後に、両手の押弦をキープしたまま、右手薬指でタッピングとプリングを行なうのだ(写真②~④)。特に右手の押弦を維持することとストレッチがきついで、指の力をしっかり鍛え上げてほしい。最終的には、流れるようなプレイを目指そう!



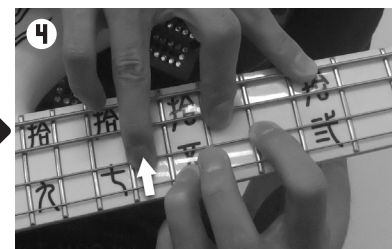
① まずは、右手人差指&中指で4&3弦を叩く。



② 続いて、左手人差指と薬指で2&1弦をタップしよう。



③ 両手が押弦している状態で、右手薬指がタッピング。



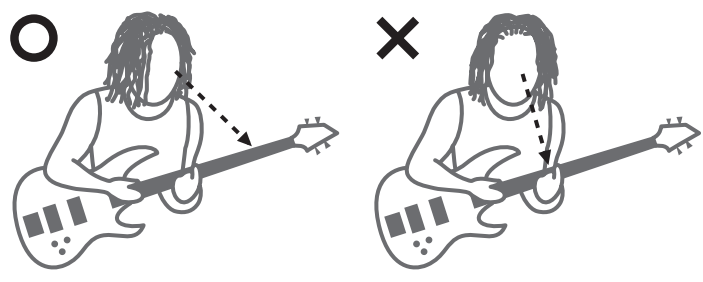
④ 右手薬指はタッピング後にプリングも行なう。

注意点2 右手&左手

常に先のポジションを見て フレーズを滑らかに繋げよう

タッピング・フレーズの譜面は、読みやすくするためにタイやスラーなどの音を伸ばす表記を省略している。しかし、実際には1音1音を伸ばしながら弾くことが重要だ。メイン・フレーズは、各小節の1&2拍目が両手によるコード・タッピング、3&4拍目が右手薬指のタッピング&プリングによるアルペジオとなっている(コード・タッピングで鳴らした4和音を伸ばしながら、アルペジオを加える流れ)。指をしっかりと広げてタッピング・ポイントを確実に捉え、コード・チェンジもスムーズに行なうことが大切だ。タッピング・ポジションを頭イメージしながら、常に次のポジションを先手先手で確認しながら【註】、細かい移動に対応してもらいたい(図1)。

図1 視点の置き方



次のポジションを確認しながら弾こう! 今、押さえているポジションだけを見るのはNG!

~コラム26~ 将軍の戯れ言

ベースのピックアップは、電池で動くアクティブと電池を使わないパッシブの2種類がある。基本的には、オールドやビンテージ・モデルにはパッシブ、最近のモデルにはアクティブが搭載されていることが多い(もちろん例外もあって、現代的なベースにもパッシブ・モデルはある)。パッシブはある特定の音域の出力(特にミドル・レンジ)が強く、アクティブはハイからローまで幅広く出力する特性を持つ。筆者は、レコーディングではパッシブ、ライブではアクティブという風に2つを使い分けている。レコーディングでは、ミドル・レンジがしっかり出るパッシブの方が音抜けが良く、ベース

キミはパッシブ派? アクティブ派? ベーシストのためのピックアップの選び方

の存在感を際立たせることができるのだ(アクティブは音のバランスが良いため、バックの演奏に溶け込み過ぎてしまう印象がある)。一方、ライブではオーソドックスな2フィンガーやタッピング、スラップなど、1曲の中で複数のテクニックを使い分けることがあるため、音域が広いアクティブの方が音作りがしやすい。また、アクティブの方が、ドラムやギターにかき消されることなく、ベース・サウンドをしっかり聴かせることができるのだ。ピックアップは、自分の指先から生み出された音をより明確に表現してくれる重要な存在なので、ぜひ各自で探求してみてください。



⑤ 著者のカスタム・モデル。ピックアップはアクティブで、フロントがEMG-35P、リアがEMG-35J。

【先手先手で確認しながら】常に次のポジションを確認しながら演奏することで、音を滑らかに繋げていくことができる。そのためにもフレーズの流れをきちんと頭に入れておくことが大切だ。